

パットシータ・レルングニルンサティット研究員（タイ）



パットシータ・レルングニルンサティットと申します。タイの内務省防災局（DDPM）で専門の科学者として勤務しております。主な業務は、危険の進み方や特性の研究・調査・分析です。また、知識を活かしつつ、地理学・気象学・最新テクノロジーシステム・管理情報システムの知見も取り入れた洪水予測システムから情報を集積する事により、防災・減災の基準を設定にする作業に携わっています。

DDPM は政府機関でも高い位置付けに在ります。2002 年、内務省下に設立されました。大惨事になる手前、もしくはその最中での国民の安全確保に努め、救援活動を遂行する役割を担っています。DDPM は、災害への備えと予防を強化する活動として、年間の防災・減災計画の作成、緊急時の演習、災害危機管理に基づいたコミュニティづくり、早期警報システムの設置を行っています。

諸外国と同様、気候変動その他が原因となって起こる災害はタイでも増えつつあり、規模も拡大しています。と同時に、タイが国家発展の中で成し遂げた進歩・繁栄は必然的に、この上なく複雑さを増したあらゆる災害に於いて、望まざる影響をもたらしたのです。つまり、組織的に管理する事が大変重要であり、全ての政策やプランと調和が取れていなければなりません。

2012 年 1～4 月の ADRC での研修期間中は、日本の災害予防及び早期警報システムについて学びます。個人的に、日本は革新的な早期警報システムに於いて、世界の先端を行っていると考えています。タイのような発展途上国と日本のような先進国の防災・早期警報システムの比較は興味深い事です。災害対策の知識が未熟なタイにとって、この研究報告は、包括的かつ信頼出来る情報源となり、役立つ事でしょう。ここでの研修で学ぶ事は、将来、タイの防災技術の発展にきっと生かされるはずです。

タイでも活用可能な災害対応の知識と経験を得て、自国に合った形で持ち帰りたいと思っています。ADRC スタッフとの論議や意見交換を通じて、DDPM と ADRC 間の協力をより深められます事を、心より願っております。